**説教20240218創世記2：4-17マタイ4：1-11「悪魔の誘惑」**

**今日は受難節第一日です。私たちはいよいよ受難節に入れられた訳ですが、この時に私たちは努めて、イエスキリストの十字架上での苦しみ、シナイ半島を４０年間さ迷った神の民の苦しみ、そして今を生きるクリスチャンたちの苦しみを覚えて参りましょう。**

**さてクリスチャンがイエス様に希望を見出すには、必ず十字架の苦しみを経なくてはなりません。苦難は忍耐を,忍耐は練達を、練達は希望を生むということを聖書は語っています。クリスチャンは自分に与えられた苦しみを、この世の喜び、たとえば酒に浸るとか、趣味に没頭するとかして、その苦しみから逃れようとはしません。そうではなくて、十字架に架けられたイエスキリストの苦しみを覚えつつ、イエスキリストに救いを求めて、その苦しみが喜びへと変えられますようにと祈り願うのです。**

**ですからクリスチャンにとりまして、イエスキリストと言うお名前、存在、は何物にも代えがたい、永遠の命そのものなのです。**

**私たちがこの受難節にあって、イエスキリストの御言葉に飢え渇き、御言葉をひたすら慕い求めて、御言葉を味わうということをイエス様は願っておられます。具体的に言えば、私たちがこの聖書をむさぼり読んで、そこに救いを見出して、御言葉によって苦しみが喜びへと変えられるということです。**

**では、どうすれば、私たちは、聖書に書いてある御言葉をむさぼるほどに読んで、味わうことが出来るでしょうか。その答えの一つは、あなたが今何かに飢えているということだと思います。これは理屈ではなくて、たとえば受難節に断食をして、努めて、空腹を味わったとしますと、そこにイエス様のこんな御言葉が聞こえてくるかもしれません。『人はパンだけで生きるものではない。神の口から出る一つ一つの言葉で生きる』**

**又、ぶどうの木にも少し書きましたが、あなたが今、愛に飢えているならば、聖書に書いてあるように、「はい、イエス様、私はあなたを愛しています。そのことはあなたも御存じでしょう」と告白して、イエス様と愛の応答を続けることも出来るでしょう。**

**このようにあなたが今何かに飢えていて、まっすぐな姿勢でもって、その飢えから満たされようとするとき、イエス様はあなたを放ってはおかず、更に良いものを恵んでくださって満たして下さいます。**

**一方で、私たちは、すでに何かに満たされ、もうこれで十分、と慢心したり、酔いしれたり、怠惰になったりしたときは、注意が必要です。例えば、お金もたくさんためて、愛する家族にも恵まれて、私はもう満足です、これ以上望むことはありませんと言う心境になったとしたら、そこからイエスキリストは遠ざかって行かれることでしょう。**

**私たちが、この世にあって、何かに飢えているという状態は、イエス様による癒しと慰めへの入り口に立たされているという、好ましい状態です。しかしその入り口には、悪魔から誘惑されるという別の入り口も用意されています。**

**私たち人間が悪魔に誘惑されやすいということは、今日の創世記2章16から17節で主なる神が次の様に警告を発しておられます。**

**「園のすべての木から取って食べなさい。ただし、善悪の知識の木からは、決して食べてはならない。食べると必ず死んでしまう。」**

**園の全ての木は見るからに好ましかったと聖書には記されています。では人間は、その樹々の中からどうやって食べてはいけない善悪の知識の木を区別できるのでしょうか。アダムとイヴはその食べてはいけない木がこれだと、神さまから知らされていたようですが、今の私たちにはその区別は、あいまいです。食べてはいけないこの善悪の知識の木とはいったい何なのでしょうか。**

**今日イエス様は、そのことを御自身が体験をしたことから、私たちに語って下さいます。**

**皆さま、もうすでに経験されている方も多いかもしれませんが、悪魔と言うのは、いい顔を装って近づいてきます。悪魔は、平和や喜びを差し上げますよ言いながら、あなたの中に入り込んで、離れられないようにして、それから、暴力や憎しみなどのその本性をあらわにすることが多いのです。**

**究極的には、悪魔は、私たちがキリストのものとなって、永遠の命を得ることを妨害する存在です。イエス様も、御自身が洗礼を受けられた直後にこうして、悪魔からの激しい誘惑を受けられたのでした。**

**そう言う訳で、私たちは信仰が深まって、キリストのものとなればなるほど、そのすぐそばで悪魔が更に熱心に誘惑してくるということを覚悟しておく方が良いでしょう。**

**悪魔と言うのは決して抽象的な物語上の存在なのではなくて、私たちが日々、細心の注意を払いながら、その方へは一歩も近づかないという、意志と知恵と感性を働かせて留意すべき、とても身近にある具体的な存在なのです。悪魔に誘惑されて入る入り口は広くて入りやすいのです。**

**イエス様は悪魔から具体的に３つの誘惑を受けられました。**

**悪魔は、空腹を覚えられていたイエス様に言いました。「神の子なら、これらの石がパンになるように命じたらどうだ。」私たち人間には、石をパンに変えること等無理な話ですが、イエス様はそれが出来るお方です。でもこの時イエス様は、悪魔のこの声に従うことはありませんでした。それは、飢えという体験を通して、この世の食べ物以上の食べ物である御言葉と言う誠の食べ物を得させようという、父なる神の御心に従うためでした。この体験は人間のレベルでいえば、断食を行っている人の横で、パンを差し出して食べてみればと言っているようなことだと思います。**

**次に悪魔はイエス様に言いました。「神の子なら、飛び降りたらどうだ。『神があなたのために天使たちに命じると、あなたの足が石に打ち当たることのないように、天使たちは手であなたを支える』と書いてある。」それに対しイエスは、「『あなたの神である主を試してはならない』とも書いてある」と言われました。**

**これは人間のレベルでいえば、悪い同級生が、級友をおだてて「２階から飛び降りてみ、みんながあなたをヒーローとしてほめそやしますよ、」とそそのかすようなことでしょう。この2階からと言うのは夏目漱石の坊ちゃんと言う小説の冒頭から採って来たものです。**

**更に、悪魔はイエスを非常に高い山に連れて行き、世のすべての国々とその繁栄ぶりを見せて、「もし、ひれ伏してわたしを拝むなら、これをみんな与えよう」と言った。すると、イエスは言われた。「退け、サタン。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』と書いてある。」**

**この３つ目は、現代人にとって大変わかり易く理解しやすい出来事でありましょう。この世の国々は、とくに物質的な繁栄を求めてがむしゃらに前に歴史をすすめていますけれども、それによって、国民の心と体が、悪魔に誘惑される道を歩まないようにと願うばかりです。**

**私たちの今の生活には、主なる神から決して食べてはならないと言われている善悪の知識の木が、あちこちにあることが、イエス様によって明らかにされました。私たちは、飢え渇くことがないままにパンを食べて、その結果、神の御言葉を食べようとは思わなくなります。自分自身が注目されようと思って、野心のとりことなって行動します。又、今の国家は繁栄することばかりを求めて、かえって戦争と堕落を招いています。**

**これらは小さいことも大きいことも、みんな悪魔の誘惑によることだと聖書は言っています。これらの誘惑に対抗する道はただ一つ。『あなたの神である主を拝み、ただ主に仕えよ』これだけです。私たちは何も迷うことはないのです。**

**主を拝み、ただ主に仕えるクリスチャンの道は、永遠の命に至る喜びの道ではありますが、決して自分自身がヒーローになってほめそやされる道ではありません。それどころか見栄えがせず、周りの人からかえって批判されたり、時には憎まれたりすることもあるでしょう。**

**旧約聖書にヨナ書と言う書物があります、短いですし、語り口も優しいので是非お読みになって下さい。又YouTubeでも沢山物語られています。ヨナ書の主人公ヨナは、神さまに救われた人でしたが、その立ち居振る舞いや行状は決して、人から褒められた者ではありませんでした。まあ正直と言いますか、神の召命にも、嫌々ながら従って行くという有様でした。周りの人たちからはけちょんけちょんに言われましたし、ヨナ自身も、ニネベの人が悔い改めて神様に救われたことに、かえって嫉妬してしまうという人間的な心を持った人物でした。**

**しかしこのヨナという人は、悪魔の誘惑にはかからない人だなあと私は思います。ヨナは嫉妬心とか、怒る心とか、神さまに従わない心を抱いて、この地上を歩みました。しかし、どういう訳か、彼は主イエスから離れることがありませんでした。彼は常に呼び戻されて、主イエスと共にこの地上を歩み通したのでした。ヨナは自分が懐いているそのような悪い心は全て、主イエスに対してぶちまけました。彼は、主イエスと悪魔が隣りあっている道の入り口にあって、必ず主イエスの道を選んで歩む人でした。ですから、彼はいつも軌道修正されて、遂には魚の口から吐き出され、永遠の命を得ることが出来たのでした。**

**主イエスに従っている人が、周りの人からどう見られるのかと言う、一つのわかり易い例が、このヨナの姿でありましょう。私たちは、この世の歩みで、決して全ての人から誉められるような優等生を目指す必要はないのです。**

**反対に、悪魔の誘惑に乗りやすい人と言うのは、わかり易く言えば、見栄えよく、人から誉めてもらおうとし、自分の野心を燃料として行動していくということでしょう。まあ、誰しも多かれ少なかれこうした一面は有る者で、人が人を批判することは出来ませんけれども、一度はまり込んだその悪魔の誘惑の道が深まらないように祈るばかりです。**

**私たちが今歩んでいますこの受難節は、主イエスの十字架上での死と、それからの御復活をもって終わります。言うまでもなく十字架上の主イエスは、何の見る者もなく、血を流して苦しむ姿を、さらされました。しかし、そこにこそ、まことの命、永遠の喜び、御栄光が顕れたのです。**

**このことは、私たちのこの地上での日々の生活においても変わることがありません。どうか、私たちが飢え渇く日々を、主イエスによって支えられ豊かに祝福されて、恵み豊かな受難節を送っていかれますようお祈りを致します。**

**祈り**

**父なる神、私たちのこの受難節の歩みを守り導いて下さい。命のパンを日々与えて下さい。今、この地に多くの苦しみ悲しみがある中で、こうしてあなたを礼拝し賛美することが出来ます幸いを覚えます。私たちがこの地にあって、飢え渇いている愛を、あなたが手を差し伸べて一人ひとりにお与えください。私たちがその愛をもって、互いに忍耐することが出来ますように。**

**あなたの愛をもって、私たちが悪の誘惑におちいらないように守って下さい。**

**御子キリストの十字架での苦しみを覚えます。私たちの罪の為に苦しまれ、今なお、私たちが一人も滅びないで救われるために、忍耐しておられる御子のお姿に私たちがいつもならっていく事が出来ますように。**